たっくす

消費税のありかたを考える



左から 尾崎副署長、中山署長、山本会長、山田副会長



中山覚署長に聞く



青木俊英氏の半生を聞いてみよう！

VOL.

89

中山覚新署長が語る仕事への思いと地域への感謝

新署長インタビュー

ご縁に支えられ、人を大切に歩んだ五十四年

青木俊英氏インタビュー

P.10–13

P.03–06

ご挨拶 …… P02
会員募集のご案内 …… P07
新宿区の税事情 …… P08–09
税務署からのお知らせ …… P14–17
活動紹介・活動日誌 …… P18–21
協賛広告 …… P22–28

https://www.shinjuku-kanzeikai.jp/

2026年9月24日発行 ／ 発行：新宿間税会 ／ 第89号







新任のご挨拶

Message



新宿間税会 会長　**山本 大視**



新宿税務署長　**中山 覚**

会員の皆様には、日頃より新宿間税会の活動に温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。会の運営を支えてくださる役員の皆様にも、深く感謝しております。

新たに着任された中山覚署長をはじめ、税務署の皆様や地域の関係団体と連携し、会員の皆様とともに税への理解を深め、交流の輪を広げていきたいと存じます。税について学び、業種や世代を超えて経験や知恵を分かち合うことは、日々の仕事を見つめ直し、互いのつながりを深める機会にもなります。また、小学生の「税の標語」を通じた租税教育は、子どもたちが暮らしと税の関わりを考える大切な入口です。こうした学びと交流を、会の活動の軸に据えたいと考えております。

これからも、会員の皆様のお声を大切にしながら、親しみやすく、参加してよかったと感じていただける会を目指してまいります。引き続きご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご事業の一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

爽秋の候、新宿間税会の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度の異動で新宿税務署長を拝命しました中山でございます。異動前は東京国税局調査第一部において国際監理官を務めておりました。前任の稲瀬同様、よろしくお願いいたします。

山本会長をはじめ、役員、会員の皆様には、税務行政のＤＸ化に向けた取組へのご参画や税に関する勉強会の開催など、日頃から税務行政の円滑な運営に深いご理解と多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、役員の皆様におかれましては、ご多忙の中、直接小学校に足を運んで「税の標語」の募集活動を行っていただくなど、この国の未来を担う子供たちに税の重要性を伝えるための租税教育活動にも熱心に取り組んでいただいており、感謝の念に堪えません。

結びにあたり、新宿間税会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝並びにご事業のご繁栄を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

中山覚署長インタビュー

相手の立場に立ち、中長期の信頼を築く

国際交渉で培った姿勢を胸に、地域と向き合う。

中山署長の仕事観と素顔を、山本会長が伺いました。

国際交渉から、地域との信頼づくりへ。



学生時代に親しんだ新宿で、今度は税務署長として地域に向き合う。

新署長の経歴

山本会長（以下：山本）　このたびはご着任、おめでとうございます。新宿にはもう慣れましたか。

中山署長（以下：中山）　ありがとうございます。この庁舎での仕事は初めてですが、新宿は学生時代に学校へ通い、よく学び、よく遊んだ思い出の街です。東京の東側から東西線で通っていたので、懐かしさがあります。親しんだ街で税務署長として働けることを楽しみにしています。私は丙午の生まれで、この庁舎も丙午の年に落成したと伺いました。次の丙午の年にここで働くことにも、不思議な巡り合わせを感じています。

山本　税務の仕事に就かれたきっかけを教えてください。

中山　高校時代、選択授業で簿記・会計を学び、税理士という資格を知ったことがきっかけです。その勉強の延長で国税専門官という仕事を知り、国税の道に進みました。

山本　これまでの勤務地で、印象に残っているところはありますか。

中山　東京国税局の大手町や築地、霞が関の国税庁、都内の税務署などでの勤務が中心でした。そのほかに経験した小田原税務署長の仕事は印象に残っています。二市八町と管内が広く、挨拶や行事だけで半日、一日とかかり、地域の皆さまのご協力がありがたかったですね。静岡県東部との経済的なつながりも強く、熱海や沼津など、国税局の管轄を越えた交流や広報面での連携もありました。

仕事で大切にしていること

山本　長く税務の仕事を続ける中で、大切にされてきたことは何ですか。

中山　これまで最も長く経験したのは、租税条約に基づく外国税務当局との交渉です。そこで大切にしてきたのは三つあります。目先の成果だけにとらわれず、中長期の信頼関係を見据えること。相手の立場に立って物事を考えること。そして、客観的な感覚や相場観を持つことです。一つの案件だけを見て結論を急ぐのではなく、その先も続く関係を考える。相手がどのような制度や事情の中で考えているのかを理解し、自分に有利か不利かだけで提案を判断しない。双方が納得できる現実的な着地点を探ることが大切だと思っています。

山本　その経験を、新宿税務署長としてどう生かしたいですか。

中山　これまで大切にしてきた中長期の信頼関係や、相手の立場から考える姿勢には、新宿税務署長としても生かせるものがあると思っています。

交渉のやりがいと達成感

山本　交渉の仕事で、やりがいを感じるのはどのような時ですか。

中山　双方が納得できる形で結論を得られた時です。国が違えば、法律だけでなく、その背景にある文化や経済、慣習も異なります。同じ言葉を使っていても、制度の前提や当然だと考える基準が一致するとは限らず、交渉は思うように進まないことの方が多いのです。したがって、双方が少しずつ譲る、いわば痛み分けのような形で終えることになります。それでも、お互いが納得できる答えを探し、結果を出せた時にはすっきりします。難しい仕事だからこそ、大きなやりがいを感じます。

山本　特に印象に残っている交渉はありますか。

中山　ある国との交渉で、先方の代表が最初から、双方の立場を踏まえた合理的な提案を出してくださったことがありました。通常は互いに案を示し、何段階かにわたって少しずつ距離を縮めていきます。提案を受け取った時も、いったん持ち帰って検討し、譲歩として受け入れます、という進め方をすることが多いのです。ところが、その提案は日本側が次に出そうと考えていたものと一致していました。そこで、もったいぶった言い方をせず、間髪を入れずに「それでいいです」と答えました。すると場が一気に盛り上がり、双方から次々と意見やアイデアが出て、別の案件も含め、当初考えていた以上の課題を解決できました。その夜は先方とお酒を酌み交わし、互いに譲り合う様子に「お酒も昼と同じですね」と冗談を言い合いました。相手の提案を素直に受け止めたことが、予想を超える結果につながった、達成感のある経験です。

山本　折に触れて思い出す言葉はありますか。

中山　母校の高校の校歌にあった「去華就実」という言葉です。「華を去り、実に就く」と書き、華美なものにとらわれず、実質を重んじるという意味に受け止めています。国際交渉は、こちらが理想的な筋書きを描いても、相手が受け入れなければ意味がありません。現実を見据え、双方が納得できる落としどころを探る。仕事を重ねる中で、この言葉を実感してきました。

仕事を支える視点

去華就実

華を去り、実に就く。


経験の一つひとつを、丁寧に聞く。


聞き手側にも笑顔が広がった、和やかなインタビュー。

休日は走ってリフレッシュ

山本　休日はどのように過ごされていますか。

中山　録りためた番組を見たり、簡単なおつまみを作ったりしています。料理と呼べるほどではありませんが、居酒屋で食べておいしいと思ったものを、自分でも焼いたり煮たりして試します。食べることも好きで、昼は総務課長に案内してもらいながら、新宿のお店を少しずつ開拓しています。もう一つ、長く続けているのがランニングです。

山本　ランニングはいつ頃から始められたのですか。

中山　十五年ほど前、趣味をつくろうと思って始めました。初めてのフルマラソンはとてもつらく、途中から歩いてしまいましたが、二回目に出た東京マラソンでは、目標の四時間切りを達成できました。その後、五年ほど続けるうちにタイムが伸びにくくなり、無理な練習はけがにもつながると考え、景色を眺めながら長い距離をゆっくり走るスタイルへ移りました。百キロ前後を走るウルトラマラソンなどにも参加し、川越との関係にも似ていると感じています。

長い道のりをともに進む

山本　長い距離を走る魅力は何でしょうか。

中山　競争というより、参加者同士に仲間意識が生まれることです。走力の近い人とは抜きつ抜かれつしながら何度も顔を合わせ、やがて仲良くなります。コースの難所や天気予報、けがへの対処、食事について助言し合い、眠い区間では話し相手になってもらうこともあります。長い道のりをともに進む仲間の存在は、大きな助けになります。署長や副署長を経験するようになって、こうした関係は税務署と関係団体の皆さまを出発して東京を回り、再び川越へ戻る約二百キロの大会にも出ました。長時間に及ぶため、大会で用意されたものを食べたり、街中のコンビニに立ち寄ったりしながら、途中でエネルギーを補給します。走った後なのに体重が増えることもあるほど、補給も大切な競技なんです。最近は、もう少しゆったりした大会を楽しんでいます。

山本　お酒もお好きとのことですが、お気に入りの一杯はありますか。

中山　今は焼酎などを飲むことが多く、おすすめは焼酎の豆乳割りです。飲み口がよく、カルアミルクのような味わいになります。健康的なのか、そうでないのかはよく分かりませんが、気に入っています。友人に勧めたところ、飲み過ぎて太ってしまう、と後から言われたこともありました。なかなかお店には置いていないですね。


中山署長（左）と、尾崎副署長。



左から、尾崎副署長、中山署長、山本会長、山田副会長。

新宿の街とこれから

山本　小田原と新宿で、街の印象に違いはありますか。

中山　新宿には都庁や副都心の高層ビルがあり、小田原には城や箱根などの観光地、史跡があります。景観は異なりますが、海外から多くの方が訪れ、古いものと新しいものが共存している点は共通しています。新宿でも関係団体の皆さまにご協力いただいており、地域とのつながりの大切さを感じています。

山本　新宿で目に留まる風景や、これから訪ねたい場所はありますか。

中山　学生時代に過ごした頃と何が変わり、何が残っているのかに目が向きます。昔通ったラーメン店や飲食店、雀荘などが今も残っているか、管内を回る時に確かめています。高田馬場には当時を思い出す店が残る一方、歌舞伎町など大きく変わった場所もあり、懐かしさと街の変化を感じます。もう少し涼しくなったら、まだよく知らない落合方面も含め、管内をジョギングして回りたいと思っています。落合は坂が多いと聞きますが、それも楽しみです。昼食のお店も開拓中です。外国の方が多く、食事のジャンルも豊富なので、いろいろなお店を訪ねてみたいですね。

地域の皆さまへ

山本　地域との関わりで感じていることと、会員・地域の皆さまへのメッセージをお願いします。

中山　申告書や各種手続きのデジタル化、事務の効率化により、税務署が納税者の方々に寄り添う形は変わりつつあります。着任してまだ一か月ほどですが、地域の皆さまとお話しする中で、こうした変化を大変よく理解してくださっていると感じています。これも、新宿間税会をはじめ税務関係団体の皆さまに、周知や広報でご協力いただいているおかげだと考えております。皆さまのご理解とご協力があってこその税務行政です。いつも支えていただき、ありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

※質問・回答は、取材内容と質問票を基に誌面向けに整理しています。

企業の健全な発展と交流



2026年度会員募集中！

新宿間税会では、趣旨にご賛同いただき、活動にご協力くださる新規会員を募集しています。

新宿間税会は、消費税を中心とした間接税の納税者で組織している団体です。
正しい税務知識の習得、よりよい税制や税務行政をめざして会員の意向を反映した税制改正を要望したり、
各種講演会や研修会を開催しています。異なる業種の会員が参加する各種会活動により異業種交流を図れます。
これから迎える少子高齢化社会では、消費税の重要性は益々高まります。
ぜひ当会にご入会いただき、ともに考えてまいりましょう。

新宿間税会の主な活動

新宿間税会では、会報誌「たっくす」の発行をはじめ、
会員の交流を目的とした催しを多数ご用意しております。
詳しくは、P.18 ~ P.21 の「新宿間税会の活動紹介」を
ご覧ください。入会やイベントにご参加のお申込は、
下記の事務局にご連絡をいただくか、ホームページよりお問い合わせください。



会報誌「たっくす」
年2回発行

＼新宿区でなくても参加できます！／

新宿間税会への入会、または活動イベントへのご参加をご希望の方は、
下記事務局までお問い合わせください。

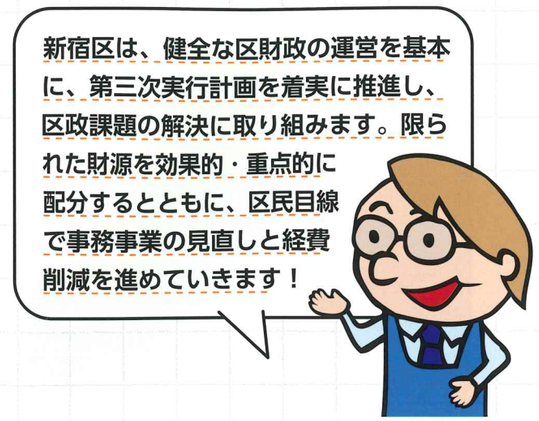
㈱FUNKYCRUISE　新宿間税会事務局（岩下・海川・中山）　㈱小田急百貨店

ダイヤルイン　03-6908-8655
FAX　03-3361-5556

年会費 ▶ 一口 4,800円

特集

新宿区の税事情



新宿区の財源

新宿区の財源（収入）は、**一般財源**と**特定財源**からなります。**一般財源**とは、使い道が原則として特定されない収入で、**特別区税**、**特別区交付金**、**地方消費税交付金**などがこれにあたります。**特定財源**とは、使い道があらかじめ決められている収入で、**国庫支出金**、**都支出金**などがこれにあたります。2026 年度の**一般財源**は 1,231 億円で、前年度当初予算と比べて約 40 億円増えました。収入に占める**一般財源**の割合は 65.5%、**特定財源**は 34.5% です。新宿区は、健全な区財政の運営を基本に、第三次実行計画を着実に推進し、区政課題の解決に取り組みます。限られた財源を効果的かつ重点的に配分し、区民目線で事務事業の見直しと経費削減を進めます。

2026 年度の新宿区の歳入

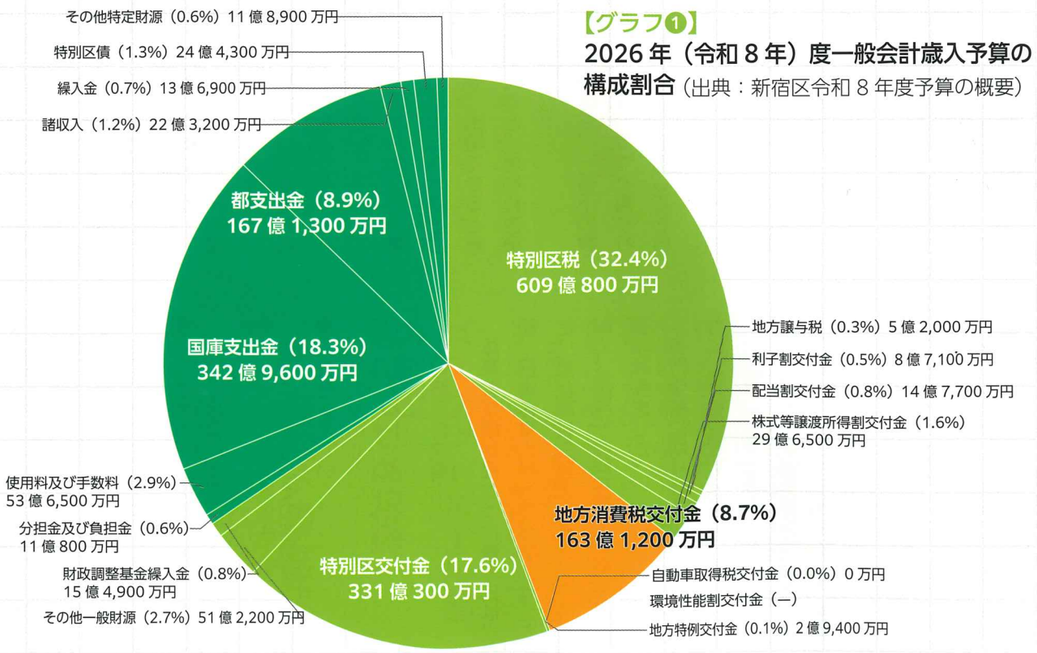
1,878億3,600万円

（内、**一般財源**の総額は **1,231 億円**）

2026 年度の地方消費税交付金

163億1,200万円

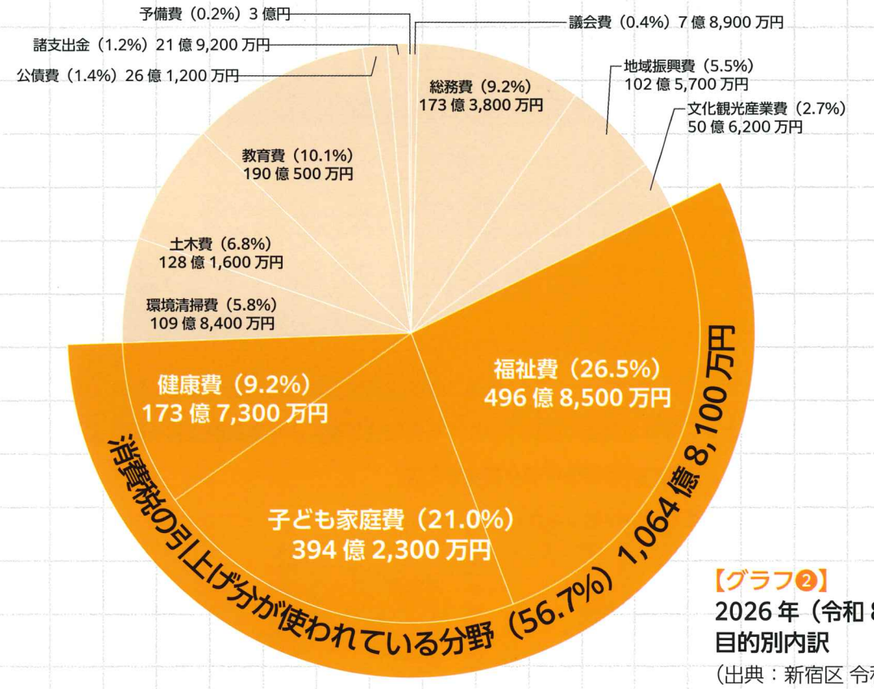
（前年度当初より約 19 億円増）



【グラフ❶】
2026 年（令和 8 年）度一般会計歳入予算の構成割合（出典：新宿区令和 8 年度予算の概要）

2026年度、新宿区の税金の使い道

2026 年度に新宿区が使い道を決めたお金（**合計 1,878 億 3,600 万円**）を目的別にみると、**福祉費（497 億円）**と**子ども家庭費（394 億円）**は合わせて **891 億円**となり、全体の**約 47%** を占めています。また、総務費は **173 億円**で、庁舎整備基金積立金の増などにより、前年度当初予算から**約 26 億円（18.0%）**増えました。



【グラフ❷】
2026 年（令和 8 年）度歳出予算の目的別内訳
（出典：新宿区 令和 8 年度予算の概要）

地方消費税引き上げ分の使い道

2014 年・2019 年の地方消費税率引き上げ分（計 1.2 ポイント）に相当する 2026 年度の交付額は、**約 63 億円**と見込まれています。引き上げ分は、**子育てや障害者・高齢者への支援**、**低所得者の保険料軽減**など、社会保障（社会福祉、社会保険等）の充実に活用しています。

主な対象事業の一般財源額等（引上げ分の配分額ではありません）

- **❶低所得者の保険料を減らす** …… 9 億 3,875 万円
- **❷介護サービスの基盤整備や介護給付費** …… 33 億 5,855 万円
- **❸子ども・子育て支援新制度への対応** …… 85 億 4,581 万円
- **❹障害者福祉サービスなどの利用者の負担を軽くする** …… 8,851 万円

※①～③は一般財源額、④は負担軽減額。万円未満四捨五入。財源の一部に引上げ分を充当。
※使途額は原資料の「令和 8 年度 1 号補正（3 月）」を反映。円弧の金額は 3 分野全体の歳出額。

INTERVIEW

ご縁に支えられ 人を大切に歩んだ 五十四年の道

新宿高野で経理から管理職まで、半世紀を超えて勤め上げた青木氏。現在は株式会社よし彦の管理部長を務める。新宿間税会との関わりも、もう三十年を超える。八王子で育った少年時代から、思いがけず始まった新宿高野での日々。共に時を重ねてきた仲間や家族への想いまで——五十四年の歩みを、ゆっくりと伺った。



青木 俊英 氏
株式会社よし彦　管理部長

八王子で育った少年時代
—山と祭りの町で—

青木氏は、東京・八王子の生まれ。以来、一度もこの町を離れたことがない。父は土建会社を経営し、母はパート勤め。二歳下の弟との四人暮らしだった。

「家の近くに『ひよどり山』という小さな丘がありましてね。子どもの頃はよく、そこに登って遊んでいました」

外で遊ぶことしか頭になかった——そう語る青木氏は、懐かしそうに目を細める。

八王子は、江戸から相模湖へ抜ける宿場町として古くから栄えた町。町ごとに山車を出す祭りは、今も賑やかに続いている。

「祭りの最終日には、山車が全部並んでね。互いに囃子を競い合うんです。とても賑やかな祭りですよ」

少年時代を語る表情は、やわらかい。

両親については、母は鮮に厳しく、父は酒が入ると怖かった。

「弟は父親似で、私は母親似なんです」

そう言って、照れたように笑った。

学生時代
—ハードルとハンドボールと—

通った小学校は、八王子市立第十小学校。五年生で陸上部に入り、中学でも陸上を続けた。

「足が速いわけでもなく、物を遠くへ投げられるわけでもなくて。それで八十メートルハードルを選んだんです。ハードル自体も低いし、距離も短いので、短い足でもなんとかなると思って」

そう謙遜するが、関東大会の参加標準記録は十二秒四。青木氏は大会でこの記録を出している。出場できると意気込んで顧問に伝えると、思わぬ言葉が返ってきた。

「『お前の十二秒四はな、一番下の数字だぞ。出ても勝てないぞ』と言われましてね。結局、大会には出してもらえませんでした」

そう言って苦笑する。

高校は八王子第二商業へ進学。今度は、ハンドボール部に誘われた。入部体験に行ってみると、キーパーがわざと取らずにゴールさせてくれた。

「『お前はセンスがあるな』と褒められて。後で聞いたら、男子部はどのクラブも人手が足りなくて、男の子を欲しがっていたそうです」

笑いながら、そう話す。中学からの同級生も入部するというので、自分もハンドボール部に入った。三年間続け、チームはベスト八まで勝ち上がる。

スポーツに励む一方、商業科目の簿記もまた性に合った。

「必ず答えが出るんです。それがよかった」

数字に向き合うその姿勢が、後の経理人生を支えていく。

思いがけぬ就職
—締切前日の決断—

体育の成績が良かった青木氏は、当初、日本体育大学への進学を考えていた。だが高校三年のとき、父の商売が傾く。推薦に必要な費用が用意できず、進学は断念した。

専門学校に切り替えようかと迷ううちに、申込の締切は翌日に迫っていた。

「当時、高校に求人が来ていたのが、新宿高野と紀伊國屋書店さんでした。どちらのお店にも行ったことがなかったので、どんな会社かもよく知らなくてね。友人が紀伊國屋を受けると言うので、じゃあ自分はこっちでいいかと」

その何気ない一言が、新宿高野との

五十四年の始まりだった。

入社時、新宿高野は経理要員を募集していた。入社試験では、青木氏ただ一人がそろばんを使わされた。

「商業学校出身というだけで、もう採用は決まっていたみたいでした」

十八歳の春のことである。

そろばんと電卓と
—機械化の時代を駆け抜けて—

入社当時の経理は、そろばんと伝票めくりの世界。電卓は会社にわずか二台、一台五十五万円もした時代である。

「新入社員の私には、当然使わせてもらえませんでした」

それから六年。カシオや日立が次々と電卓を発売し、価格は一気に下がる。若手はこぞって電卓を握ったが、年配の社員はそろばんを手放さなかった。

「使うからには早くやりたいので、もともと電卓を使っていた人や、そろばんが速い上司と速さを競ったり。仕事をしながら遊んでいるような感覚でやっていました」

経理の仕事はおよそ十八、九年続いた。会計システム、両替機、紙幣計数機。次々と機械化を進めた。それまで売上金は各売場から一人ずつ集まって数えていたが、機械化によって経理だけで処理できるようになった。

「あれは、自分の中では結構いい仕事だったと思います」

控えめな言いぶりに、人柄がにじむ。

四十歳の転機
—希望退職の調整役として—

三十七歳で食品の営業事務マネージャーに、四十歳でファッション営業事務の課長に着任した。ちょうどその頃、ファッション部門の業績が厳しくなり、第一次の希望退職が始まった。対象は四十歳以上の社員だった。

「私もちょうど四十でしたから、当然対象だと思っていたんですが、なぜか役員から『お前はダメだ、残れ』と言われましてね」

それどころか、対象者一人ひとりとの面談を調整する役目を任された。同年代の社員もいる中での、難しい仕事である。

「『なんでお前がそれをやるんだよ』と言われたりして、正直、居心地は悪かったですね」

それでも逃げずに役目を果たし、五十歳で管理部長へ。八年間勤めた。

その後、当時ファッション営業事務の課長を務めていた人物の体調が思わしくなくなったため、青木氏は経理部長としてその現場の管理も引き継ぐことになる。六十歳で出向、六十五歳で株式会社よし彦に転籍し、現在に至る。

「ずっと二つの会社、二つのグループで来ました。本当は、これが一番いいんですよ」

長く一つの場所で働き続けた人だけが言える、重みのある言葉だ。

にっぽん丸の青春
—海を渡った仲間と—

仕事の話の合間、青木氏の顔がふとほころんだ。三十歳の頃の思い出を語ったときだ。当時、東京都が主催する青少年洋上セミナーが始まり、新宿高野からも社員が選ばれた。

「にっぽん丸という船を借り切って、上海、天津、そして北京まで行くんです」

ファッションの女性社員、食品の男性社員と三人で参加した。船上では勉強の時間もあり、各都市では見学に回った。本来は三十歳までが対象だったが、第一回は運用が緩やかで、滑り込みで参加できた。このセミナーは十数年続き、途中で船も新しいものに切り替わった。

その経験が、後に会社の周年イベントへとつながっていく。

「会社の創業百周年のときに、にっぽん丸を借り切りましてね。できるだけ全国の店舗から社員が参加できるようにして、船で茨城の鹿島港まで行って、降りてから筑波まで足を延ばすイベントをやったんです」

潮風の中、全国から集まった仲間と肩を並べた日々。話す青木氏の目に、若き日の輝きがよみがえる。

「あれ以降、あんなに大きなイベントはやっていないと思います」

バスケットボール部の創設
—異業種をつなぐコート—

四十二歳のとき、青木氏は社内にバスケットボール部を立ち上げた。

「もともとハンドボールをやっていたんですが、会社のクラブで本格的にやるのは難しい。バスケなら五人集まれば成立しますし、男女混合でもできるので」

社会人連盟にも登録し、公式戦に出られるチームを作った。集まってきたのは、現役時代にレギュラーで試合に

出られなかった社員たちだった。

「この会社のチームに入れば、ちゃんとした大会に出られる。試合経験を積める。そういう場所を作りたかったんです」

それまで交わることのなかった他店舗の社員、ファッションと工場のメンバーが、コートで顔を合わせ、試合のあとに酒を酌み交わすようになる。

「異業種交流みたいになりましたね。同じ会社でも、部署が違うとお互い知らなかったりしますから。そういう人たちがつながったんです」



タカノフルーツパーラー本店での取材

五十歳を過ぎても、人数が足りないときは自ら現役で試合に出た。

「『おい、五十なんだから来てくれよ』って呼ばれて。みんなが五十になるまで、ずっと一緒にやっていました」

部下や後輩への温かさは、こういうところに自然と表れる。

忘れられない人々
―上司のこと、部下のこと―

「人生で影響を受けた人は」と尋ねると、青木氏は入社直後の直属の上司の名前を挙げた。経理の係長。出社は週に一、二回ほど。少し前に婚約者とのお話が破談になり、心の傷から立ち直れずにいた人だった。

「その上司を呼びに、番衆町のアパートまで何度も迎えに行きました」

当時は、上司の判子がなければ小切手も手形ももらえない時代である。

「ただ、来れば仕事が早い人でしてね。私のことをかわいがってくれて、よく目をかけてくれました」

管理職となってからは、家族を大切にできる職場づくりを心がけてきた。

「結果が出ればいいわけですから。子どもの体調が悪くなったとか、幼稚園から連絡が来たとか、そういうときは気にせず帰ってもらう。産休のあいだは短期のアルバイトで補う。そのあたりは自分の裁量でできましたから」

ごく当たり前のことのように話す。けれど、こうした配慮を当たり前にできる管理職は、決して多くない。

心に残る部下のエピソードがある。売場から経理に異動してきた女性社員が、二度の産休を経て復帰した。だが間もなく癌が見つかり、当初から長くないと医師に告げられていた。「とにかく休んでいなさい」と促しても、彼女は仕事を離れようとしなかった。

「家にいてもつまらないからと、入院してからも病院から会社に通ってきていました。体調に影響がない範囲なら、いいと思いましてね」

「本当に仕事のできる人で、メンバーをよくまとめてくれました。人材には、本当に恵まれましたね」

この日、青木氏は「人材に恵まれた」という言葉を、何度も口にした。

間税会との三十年
―毛皮から始まったご縁―

新宿間税会との関わりは、ファッション営業事務の課長だった四十歳のときに始まる。当時、新宿高野は毛皮を扱っており、毛皮には物品税がかかっていた。

「百貨店では物品税を経理ではなく、営業に近い部署で扱うことが多くてですね。それで自分も間税会に出るようになりました」

入会当時の総会は、丸テーブルが四つ、五つと並ぶ賑やかな会だった。集まる人数は四、五十人。

「最初の頃は、若手はカラオケで歌わされたものです。会長と同席するときは、椅子をよけて立ってお酒を注ぐ。そういう時代でした」

研修旅行も毎年のように行われた。中でも、沼津のマグロ解体ショーが特に印象に残っているという。

「金原さんが手配してくださった沼津のマグロ。あれは本当に良かったですね」

四十歳から数えて、もう三十年余り。新宿間税会の歴史と共に歩んできた歳月である。

「最近はコロナもあって、旅行や宴会の機会がだいぶ減ってしまいましたね」

少し寂しそうに、そう付け加えた。

取材：2026年1月6日 ／ 肩書・年齢・「昨年」等の記述は取材時点

五十年、連れ添った妻

青木氏には、もう一つ語っておきたい思い出がある。妻のことだ。

当時、新宿高野にはファッション館があった。その一階の化粧品売場に、他社から派遣されて立っていたのが、後に妻となる女性だった。

「先輩に紹介されて、付き合うようになりました」

その後、妻は出産で一度退職する。再雇用後は、本社で教育担当などを務めた。各地の大学病院で癌や怪我で顔に傷を負った方にお化粧の仕方を指導する仕事もしていたという。

昨年、結婚五十周年を迎える頃、二人で記念写真を撮った。四月二日のことだった。

「結果的に、その時の写真が遺影になりました」

五十年連れ添った妻との別れ。インタビューの中でも、最も多くの言葉を費やして語ってくださったのが、最期まで看病した日々のことだった。

「『ごめんね！』『ありがとう！』と何度も繰り返しておりました」

静かな声に、深い想いがこもっていた。

これからの日々

「これからの目標は」と尋ねると、青木氏は少し言葉を探した。

「正直、去年妻を亡くしたことが、まだ整理されていないような状態で」

昨年十二月、妻の葬儀の際世話になった方への挨拶のため、青森を訪ねた。その足で、函館まで一人で旅をしたという。けれど、温泉に浸かっていると、一人では寂しさが押し寄せてくる。

「一人でどこかに行くというのは、今のところちょっと考えられないですね」

それでも、長年続けてきた蕎麦打ちは、少しずつ再開している。腕前は四段。娘さんが通っていた女子校では、父親の会の方々に蕎麦打ちを教える機会もあったそうだ。

「家内が生きていれば、きっと『今年も打ってあげなさい』と言うだろうなと思いましてね。半年以上ぶりに、大晦日も打ったんです」

亡き妻の言葉を思い浮かべながら、また蕎麦を打ち始めたのだろう。

家のプランターでは、長年オリーブやブルーベリーを育ててきた。手作りのジャムやオイルが、ささやかな楽しみだった。

「家内がいなくなってから、世話をするのもなかなか大変になってしまってね。もうやめようかなとも思っているんです」

静かに語る言葉のうしろに、語りきれない歳月が広がっていた。

インタビューを終えて

何より心に残ったのは、青木氏の語り口の穏やかさだった。冒頭、「私には話すようなことなど何もない」と謙遜された。けれど、五十四年の歩みを伺ううちに、その一言一言の奥に、数えきれないほどの人とのご縁が見えてきた。

直属の上司を番衆町まで迎えに行った若き日。希望退職の調整役を任された四十歳。社内バスケットボール部で異業種の仲間をつないだ四十二歳。最期まで仕事に通い続けた部下を見送った日々。そして、五十年連れ添った妻との別れ。

どの場面にも共通しているのは、そばにいる人をまっすぐに見つめ、その人が安心して働ける場所を、地道に整え続けてこられたことだ。だからこそ、こんなにも多くの人が青木氏のもとに集まり、長く共に歩んできたのだろう。

「人材に恵まれた」と、青木氏は何度も口にした。けれど、人に恵まれるのは、まずその人自身が、人を大切にできる人だからではないか――お話を伺いながら、何度もそう感じた。

これからも変わらず、新宿間税会でお世話になりたい大先輩である。長時間にわたり貴重なお話をお聞かせくださり、心から御礼を申し上げたい。

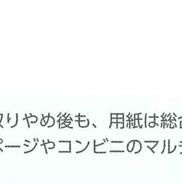
（取材・文：山本大視）

署の主な人事異動

職名	新		旧	
	氏名	前任	氏名	異動先
署長	中山　覚	局　調査第一部 国際監理官	稲瀬　貴美代	退任
副署長 （法人内部担当）	尾崎　尚幸	札幌局　調査査察部 調査第２部門　統括調査官	西依　亮	局　査察部 特別査察官
副署長 （法人調査担当）	小林　宏一	留任		
副署長 （総務担当）	中村　雄一	横浜南署 特別国税徴収官	石黒　和之	長官官房 関東信越派遣国税庁監察官
副署長 （個人担当）	森　弘幸	長官官房 東京派遣国税庁監察官補	吉田　美由紀	立川署 特別国税調査官
総務課長	荻野　祥之	向島署 総務課長	吉本　健太	東京国税不服審判所 審判第三部　副審判官
総務課長補佐	飯塚　陽祐	浅草署 総務課長補佐	鈴木　益実	局　調査第四部 調査第 46 部門　主査
管理運営統括官	土谷　智和	留任		
徴収１統括官	安立　雄三	板橋署 徴収第１部門　統括官	鬼頭　崇	武蔵府中署 総務課長
個人課税１統括官	森棟　太郎	目黒署 個人第１部門　統括官	石上　隆行	目黒署 特別国税調査官
資産課税１統括官	鬼頭　郷平	留任		
法人課税１統括官	丹沢　達人	局　課税第一部 課税総括課　実指専門官	坂本　純一	京橋署 特別国税調査官
間税会担当	竹内　深幸	浅草署 法人第５部門　事務官	堀　昭裕	局　総務部 大手町業務センター　管理官

総合窓口の受付時間について

税務署にお越しの方へ
総合窓口の**受付時間**のお知らせ



令和８年10月１日から

月曜日から金曜日（開庁日）
【原則】９：００～１５：００
（上記時間内の来署に御協力をお願いします）

国税庁では、納税者利便の向上等の観点からe-Taxやキャッシュレス納付等によるオンライン手続を提供するなど、国税に関する手続や業務の在り方の抜本的な見直し（税務行政のＤＸ）を進めているところです。

こうした各種オンライン手続の拡充を鑑み、令和８年10月１日以降、全ての税務署で総合窓口における受付時間を原則として午前９時から午後３時とすることとしましたので、御理解・御協力をお願いいたします。

※　総合窓口の受付時間外であっても、開庁時間内（午前８時30分から午後５時）に来署された場合には、対応しておりますが、可能な限り受付時間内の来署をお願いします。
※　税務署に電話で連絡される場合も、お急ぎの場合を除いて受付時間内のご連絡をお願いいたします。
※　総合窓口では申告・申請書等の受理、用紙の交付、納税、納税証明書の交付などを行っております。

国税庁
法人番号 7000012050002

令和８年６月

用紙コーナー取りやめ後も、用紙は総合窓口への請求で交付されます。
国税庁ホームページやコンビニのマルチコピー機も利用できます。

出典：国税庁（令和８年６月）／新宿税務署の会員周知依頼（令和８年７月28日）

Check

財務諸表データの作成方法

「会計ソフト」と「税務（申告）ソフト」の互換性に応じた対応

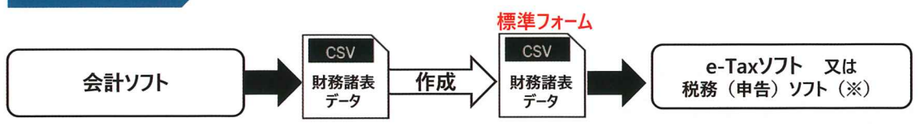
パターン① ソフト間に互換性がある



税務（申告）ソフトからe-Taxに送信することができます！！

※　会計ソフトからのデータの出力方法や税務（申告）ソフトへの取り込み方法は、ご利用のソフト会社にお問い合わせください。

パターン② ソフト間に互換性がない



標準フォームを活用し、CSV形式のデータを作成します。
作成後、e-Taxソフトからe-Taxに送信することができます！！

※　ご利用の税務（申告）ソフトによっては、国税庁標準フォームに加工した財務諸表データ（CSV形式）を取り込んで送信することも可能です。

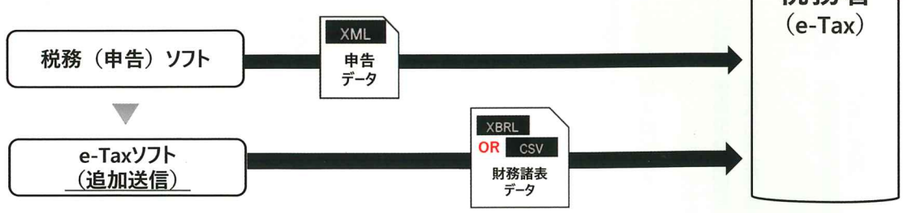
Check

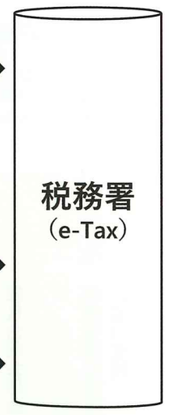
財務諸表データのe-Tax送信方法

パターン① 申告データと同時送信



パターン② 申告データ送信後にe-Taxソフトで追加送信





※標準フォームの場合はCSV形式

詳しくは、e-Taxホームページをご覧ください。▶ 財務諸表データの送信

国税庁からのお知らせ

はじめませんか、税務のデジタルシフト
～ALL e-Taxでスマートに～

ALL e-Taxのご案内

国税庁では、納税者や税理士の皆様の利便性向上と税務行政の効率化のため、添付書類（財務諸表や勘定科目内訳明細書等）を含めたe-Tax送信（ALL e-Tax）を推進しています。

ご利用のメリット

業務の効率化　ペーパーレス化　コスト削減

法人税の電子申告のQ&A

1 Q：添付書類を含めたe-Tax送信（ALL e-Tax）の利用率は？

A：e-Taxで申告した法人のうち、4社に3社を超える法人が、ALL e-Taxです。

2 Q：e-Taxで送信できる添付書類のデータ形式は？

A：法令により、提出する書類ごとにデータ形式が定められています。

財務諸表：XBRL形式・CSV形式　勘定科目内訳明細書：XML形式・CSV形式

※　PDF形式による提出が認められている書類は、リリース前別表（国税庁が提供するe-Taxソフトが対応していない別表）や第三者作成書類に限定されています。

3 Q：ALL e-Taxについて、もっと知りたい

A：e-Tax HP内のALL e-Taxの案内ページをご確認ください。

e-Tax HP
「ALL e-Taxについて」

国税庁　法人番号7000012050002

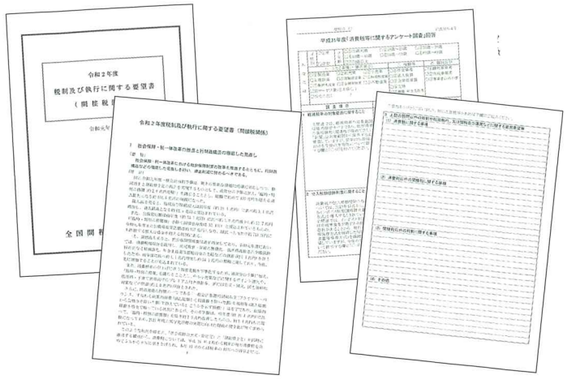
令和８年６月

新宿間税会の活動（租税協力）

新宿間税会は、地域が繋がり税に対する高い見識を得ることを目的とした団体です。1952年の発足より、物品税の廃止や消費税の導入など、研修会や国への要望書提出を通じて情報発信を行い、1982年に会報誌の発行、1993年に租税教育として小学生への標語募集など、その活動を広げてまいりました。

要望提出

みなさんの意見を集めて、国に伝える窓口として



税金の制度は、決まったルールをみなさんが平等に守ることが大事ですが、そのルールについて賛成意見もあれば、異議があることもあります。

間税会では、「国民生活の実情を踏まえた公正な税制」と「円滑な税務運営」を推進する観点から、間接税（主に消費税）に関する税制及び税務執行に関するみなさんのご意見を集める窓口となり、国に届ける提言活動を行っています。

昨年は、「令和3年度税制及び執行に関する要望書（間接税関係）」を財務省、国税庁及び政府税制調査会、自由民主党政務調査会に提出し、全国10万社の間税会会員から集められたアンケートをもとに要望事項を説明しました。

会報誌

税金の最新情報とまめ知識を年2回発行

税制改正などの税務署からのお知らせを始め、新宿区の税事情、消費税のまめ知識、研修会や懇親会の案内、会員紹介など、新宿区でご商売をされる方や、税を勉強するみなさんに有益な情報を掲載し、会員のみなさんを始め、新宿税務署、商店街、小学校に配布しています。

ホームページには、随時バックナンバーを掲載していますので、発行から40年の新宿の歴史や税制改正の歴史を閲覧することができます。ぜひご覧ください。



活動日誌【主な活動】

2025年
9月10日 城西地区連絡会合同会議・懇親会 於 杉並会館 末広の間
9月22日 国会議事堂見学会
9月25日 団体長会
9月30日 「税に関する標語」入選候補を東京局間連へ進達
11月10日 会報「たっくす」編集会議 於 新宿法人会館1階小会議室
11月13日 令和7年度 納税表彰式・祝賀会 於 ホテルグランドヒル市ヶ谷
2026年
1月21日 第4回団体長会 開催
1月26日 全単位会正副会長・青年部長・女性部長合同会議 開催
2月21日 消費税等に関するアンケート調査への協力依頼
5月12日 令和7年度会計監査 於 新宿高野
5月26日 新宿区DX推進部会 開催
2026年
5月29日 新宿区租税教育推進協議会定期総会
6月9日 「税に関する標語」募集依頼で小学校16校訪問
6月15日 新宿間税会定期総会 於 新宿法人会館3階会議室
7月17日 新宿間税会 臨時理事会 於 新宿法人会館1階会議室
7月28日 団体長会
8月3日 税務署総合窓口の受付時間等の変更をホームページで周知
8月4日 税務6団体交流会 於 ハイアットリージェンシー東京 地下1階「桃山」
9月1日 秋の税務研修会 事前打合せ 於 小田急プラネット会議室
9月3日 第9回 税務関係6団体親睦ゴルフ大会 開催 於 よみうりゴルフ倶楽部
9月7日 「税に関する標語」応募作品の回収・取りまとめ（継続中）

当会の活動と関係団体の主な開催行事を掲載しています。

ACTIVITY

租税教育

興味から始まる見識 未来を築く税の教育

税金と言うと、お上から取られているというネガティブなイメージを持つ人も多いと思いますが、税金は、私たちが決めたシステムで、納得して納めるべき私たちのためのものです。子どもがお菓子を買うにも消費税がかかります。まずはそこに興味を持ち、さらにその使われ方に興味を持ち、多くの人が税に高い見識を持つことで、よりよい未来が築かれます。

新宿間税会では、税に興味を持ってもらうきっかけ作りとして、新宿区16校の小学6年生を対象に「税の標語」を募集し、表彰、展示を行っています。



小学生の「税に関する標語」展（新宿区役所１階）

税務研修会

失敗しないための知識と新宿が繋がる講演

毎年「税を考える週間」に税務研修会を開催しています。課税事業者のみなさんが税務申告をする際、知っておくと損をしない知識など、新宿税務署が講師として研修をします。また、レクリエーションとして、会員企業の紹介の輪から講師を招き、講演会を開催しています。「新宿高野フルーツ食べ比べ」「コマ劇場支配人が語る歌舞伎町の歴史」「江戸東京野菜と新宿の歴史」「映像と資料でふりかえるバブル時代の新宿」などなど、新宿ならではの歴史や繋がりを活かした講演を行ってまいりました。



税務研修会「印紙税～誤りやすい事例から～」



講演「バブル時代の新宿」



講演「楽読体験」



講演「東洋の健康術」

新宿間税会の活動（地域交流）

新宿間税会では、税金や税務署をもっと身近に感じてもらえるよう、地域全体を交えて魅力のあるイベントや交流会を開催しています。多くの人が正しい税金の知識を得ることで、みんなが公正に制度を受け、質の良い意見が集まるより良い未来に繋がることと考えます。税をもっと親しみやすいものにするため、子どもからお年寄りまで、地域の皆様と一緒に楽しく活動しています。

ランチ会

ふだんのおつきあい

会員の方も、そうでない方も、日ごろからの縁を深める場として、ランチ交流会をしています。月に1回、お弁当持ちよりで雑談をしています。



毎月第３水曜日に開催

ゴルフコンペ

スポーツで繋がる縁

春と秋の年2回、ゴルフコンペを催し会員どうしの交流を深めています。初心者の方も大歓迎ですので、これをきっかけにゴルフを始める方もいます。



2020秋のゴルフコンペ

交流会

新宿の輪がひろがる

食欲、芸術、スポーツ、秋のイベントとして、会員が集う交流会を催しています。会員の紹介で、会場や出演者を探し、歴史ある新宿から、最新の新宿まで幅広く新宿を堪能できる会を企画しています。



楽器体験と食事会
（TC楽器／とんかつにいむら）



ボーリング大会と表彰会
（コパボウル／タンドリー酒場）



小江戸川越バスツアー
バーベキューと醤油工場見学



落語とフルーツバイキング
（末廣亭／タカノフルーツパーラー）



イタリアンとベリーダンス
（イタリア食堂ブラーボ）

ACTIVITY

イベント

全国に先立つ交流企画 税と地域と繋がる新宿

かつて、間税会の活動は物品税を納める新宿の課税事業者が集まる会でした。現在、将来に向けて注目される税が消費税となり、これまでは税に関心のなかった消費者も税をもっと学ばないといけない時代になってまいりました。

新宿間税会では、「身近な税務署・身近な税」をきっかけに税に関心を持ってもらえるような活動を企画してまいりました。

新宿税務署の改築をきっかけに近隣の子どもと旧庁舎にラクガキをする交流企画。新宿区の地域商店街と税務署と企業が協力して開催をした国内初の運動会。改築後の新庁舎を小学生が見学できる社会科見学スタンプラリー。昨年は、Ｚｏｏｍの生放送で、多数の学生からの質問に回答をする税のＱ＆Ａ授業。

これらの企画は、税務署が地域と協力をして開催した国内初のイベントとして多くのメディアに掲載され、全国の税務機関や協力団体に先立ち、新宿が税に高い見識を持つ地域として評価を受けました。



新築の税務署で
社会科見学と
似顔絵
スタンプラリー



税務署と企業と
地域が
力を合わせた
国内初の運動会



改築前の税務署で
ペンキを投げあう
ラクガキ大会







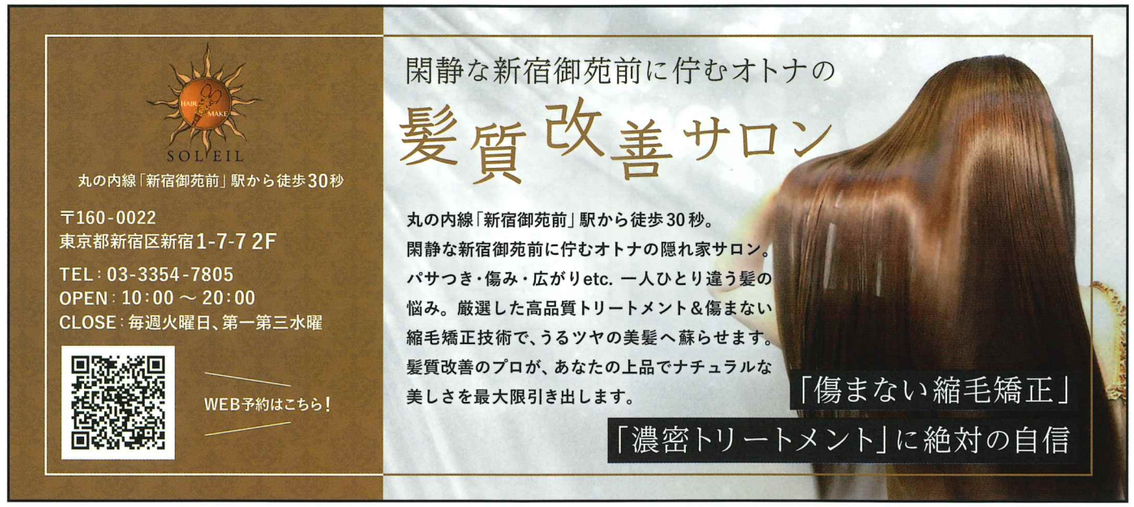
ネットの生放送でふれあう税金の授業「税のQ＆A」



Kawano
QUARK

株式会社 カワノ・クォーク

〒160-0022 東京都新宿区新宿3-34-12
カワノ・トラスト角筈ビル3F
TEL：03-3354-4325





六本木ヒルズ
けやき坂法律会計センター
〒106-0032 東京都港区六本木6-15-1 けやき坂テラス6F
TEL：03-3403-3522
FAX：03-3403-0144
mail：takuji-k@keyakizaka-law.com

adbeauty
株式会社 adbeauty
〒160-0023
東京都新宿区西新宿8-8-3
星野第一ビル3F
TEL：03-6908-6663
FAX：03-3361-5556
https://www.adbeauty.co.jp

Leader ship
Partner ship
Craftsman ship
株式会社
スリー・シップス
〒169-0073
東京都新宿区高田馬場1-22-24
朝日ビル3階
TEL：03-5337-8170
FAX：03-3366-8170





MATSUO JEWEL Co., Ltd.

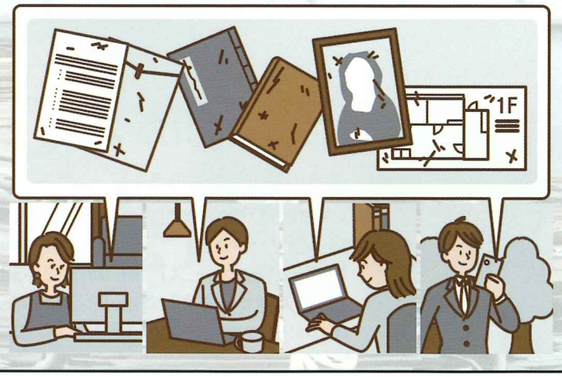
現代から未来へ
ハートのある宝石供給源でありたい

創業50年

株式会社松尾寶飾

東京都新宿区高田馬場2-13-7 1F
Tel 03-3205-4550 Fax 03-3205-8991

貴重資料の整理・電子化・テキスト化は
デジタルアーカイブの誠勝にお任せ下さい



誠勝

株式会社誠勝
新宿区余丁町7－1発明学会ビル2階
TEL:03-6457-7962
WEB:https://sei-syou.com
MAIL:info@sei-syou.com

お薬でもなく、
化粧品でもない

プロメ医粧



since 1951



新宿の自社工場で
製造しています

お肌の健康を考えて70年
（株）三粧　新宿区中落合3-8-10



私達は「食」を通じ
お客様の豊かな生活の向上に貢献します

永年受け継がれてきた伝統を活かし
お客様に「食べる喜び・楽しさ」を味わっていただくために
安全で安心な商品をお届けいたします。
お客様の信頼と満足が私達の喜びです。

Kojimaya
小島屋乳業製菓株式会社
TEL03-3371-0191
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-22-27
https://www.kojimaya.jp

出会いは新たな出来事の始まり
川鶴信行税理士事務所
税理士
川鶴信行
〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-12-1 サンパレス新宿204
TEL:03-6908-9668
FAX:03-6908-9666
mail:n.kawatsuru@gmail.com

長谷部啓税理士事務所
税理士
長谷部啓
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-10-8 老川ビル9階
TEL:03-3525-8127
FAX:03-3525-8129
mail:ini073081@hasebe1.jp

青木公治税理士事務所
税理士
青木公治
〒160-0022 東京都新宿区新宿一丁目32番11号 山口ビル2階
TEL:03-6809-3861
FAX:03-6809-3862
mail:aoki-k@wing.ocn.ne.jp

税理士
髙橋工
〒101-0047
東京都千代田区内神田3丁目10－6 文泰堂ビル4階
電話 03（5244）4340
FAX 03（5244）4341
携帯 090（7422）0293
e-mail:takatomo0512@athena.ocn.ne.jp



脇孝喜税理士事務所
NPO法人さいたま市鹿児島県人会 監事
新宿間税会 会計監事
税理士
脇孝喜
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9 麻生ビル2階
TEL:03-5281-5131
FAX:03-5283-0512
mail:kouki.waki25@mist.ocn.ne.jp



熱田税理士事務所
税理士
熱田稔敬
〒102-0093 東京都千代田区平河町一－五－十三 平河町UTビル7階
電話 〇三（三二三九）一六二三
FAX 〇三（三二三九）一六二四



新宿間税会の
活動を
応援しています。

有限会社　三起堂

新宿間税会の
活動を
応援しています。

株式会社　蕃





私たちは、企業様のご要望に応じたスタイルで
「ひと」をつなぎ、事業の可能性を広げる
お手伝いをします！

Odakyu Planet
総合人材サービス
小田急プラネット

株式会社小田急プラネット
【人材派遣・職業紹介】Tel. 03-5909-5801
【アウトソーシング】　Tel. 03-5325-2628
【教育・研修サービス】Tel. 03-5325-3413
【外国人材サービス】　Tel. 03-5325-3622
https://www.odakyu-planet.co.jp



人に地域に未来に“やさしい”
SEIBU
西武信用金庫
北新宿支店
高田馬場支店
東中野支店
中野区東中野 5-3-5
☎03-3368-0171

深澤英雄税理士事務所
税理士
深澤英雄
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-31-8
高田馬場ダイカンプラザ915号
TEL：03-3200-5770
FAX：03-3200-5771
mail：fukazawa0927@ybb.ne.jp

飯塚事務所
税理士
社会保険労務士
飯塚陽
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-5
ACQUABUILDING 4階
TEL：03-3369-8846
FAX：03-3369-8283
mail：m_iizuka@d8.dion.ne.jp

加藤大典税理士事務所
税理士
加藤大典
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-4-7 ホクシンビル1階
TEL：03-3361-6361
FAX：03-3360-6235
mail：daika_tax118@yahoo.co.jp